

大阪大学 図書館報

Vol.38 No. 3 (2004 年 12 月)

目次

NTT 技術史料館を見学して	1
電子図書館への招待	3
教員著作寄贈図書	10
お知らせ	11
会議・日誌	12

NTT 技術史料館を見学して

肥塚 隆

この春に大阪大学の常任監事に就任された二瓶文博氏は、NTT に勤めておられた時にその技術史料館の設立に参画されたというので、お願いして 11 月 30 日に総合学術博物館の江口太郎教授とともに同館を見学させていただくことになった。展示のディレクターを務められた吉原順平氏や NTT 情報流通基盤総合研究所の担当の方々のお話も伺うという幸運にも恵まれ、阪大博物館の新築基本計画を策定する上で多くの貴重な示唆を受けることができた。阪大博物館建設の際にぜひ採用した

いと思ったことを中心に、同技術史料館を紹介することにする。

JR 中央線三鷹駅からバスで 15 分ばかり、美しく色づいたイチョウ並木や閑静な住宅地を通り抜けて、NTT 武蔵野研究開発センタに到着した。そのロビーで二瓶監事と落ち合い、企画部の担当の方々に案内されて技術史料館へ。地下 1 階、地上 3 階、延べ床面積 1 万 m² 程度の単独の建物であり、2000 年 11 月に開館したという。1 階のエントランスホールからまず地下 1 階に降り、ガイダンスルームで

この史料館の設立主旨や展示の概要をビデオフィルムで拝見する。展示は「歴史をたどる」と「技術をさぐる」の2部構成となっていて、地下1階は「歴史をたどる」の展示で、日本に電信機が伝えられた19世紀半ばから日本電信電話公社が発足する1952年までの「電信電話ことはじめ」と、1950年以降の「復興と成長の時代」にあてられている。後者は、電電公社の事業を軸にした戦後の歴史をニュース映画その他によりまとめたビデオを放映しているのであるが、当時の街頭テレビの状況が再現されていて、それを粗末な白木の長椅子に坐って眺めるというのは、筆者のように当時を知る者にとってはとても実感のともなう演出となっていた。

1階から上は、南北に長い建物の東側3分の1を「歴史をたどる」にあて、それは1階が1970年代以降の「技術革新と多様化の時代」、2階が1980年代半ば以降の「デジタル技術とマルチメディアの時代」となっていて、3階の「技術史のラウンジ」はNTTの研究開発の歴史を要約したビデオや、NTTのかつてのホームページを観覧者が自由に操作して見ることができるようになっていた。この「歴史をたどる」のフロアーは上に行くほど面積を少なくして北に寄せてあるので、南半分では3階までが吹き抜けとなり、天井に吊るされている技術試験衛星ETS-VIの模型をどこからでも見ることができる。博物館の展示室は閉じられた空間が多いのだが、ここには柔らかな外光がふんだんに取り入れられ開放感があつた。この展示品は紫外線カットの必要がなさそうであったが、窓には特殊なガラスが使われているのかもしれない。ただし冷暖房費がかさむであろうと、余計なことまで心配になった。

さて「技術をさぐる」は大小さまざまな設備や機器を展示していて、その内容をフロアガイドに従って列挙することにする。まず1階は、「サービスとネットワークのひろば」として、ノード(交換)、オペレーション、トランスミッション、ファシリティの各技術。2階は、「アク

セスとターミナルのひろば」として、アクセス系システムと所外インフラの技術、ユーザ機器の技術、ソフトウェアや国際標準化、環境保護推進などの技術。3階は、「コンピュータとモバイルのひろば」として、モバイルネットワーク、文字・画像の通信、情報流通などの各技術の展示にあてられている。「歴史をたどる」が一般向けであるのに対し、「技術をさぐる」は専門家向けに徹していて、私のように人文系の者には難解であった。ただし肩に掛ける大型のものから最近の機種まであらゆる携帯電話を並べたコーナーなどは、一般の人に人気があるという話であった。

いたるところにパソコンが置かれていて、技術史料データベースや研究開発に関する映像史料を閲覧することができた。また今回は詳しく説明して下さる方がおられたので必要はなかったが、音声ガイドシステムも用意されているようであった。パネルの説明文も、データベースやビデオ、音声ガイドもすべて日本語と英語の両方が用意されていた。しかも英語の説明やナレーションが日本語の翻訳ではなく、技術の専門家が新たに英語で書くのを原則としているらしい。地下1階の「復興と成長の時代」の英語による戦後の歴史の説明が外国人にもわかりやすいと感じられたが、それだけの手間をかけているからであると納得した。

さてこの技術史料館は、1952年に日本電信電話公社が発足して以来の「NTTグループの電気通信における技術開発の歴史的資産を、系譜化し集大成」することを目的に設立された。吉原順平氏を展示ディレクターとして迎え、わずか3年間で集中的に設備備品や機器等を収集し、実現にこぎつけたという。設備や機器は日本全国の現場(電話局)に散在していたものの、もともとかなりの蓄積があつたということではあるが、収集には設備保存検討委員会事務局があたり、保存すべき史料には「NTT保存指定設備」と書かれたラベルを貼り、適当な時期に三鷹や他の保管場所に移動したということで、現在も

この方式を続けているそうである。阪大では学内の各部局から博物館へ貴重な標本や機器の移管の申し出があっても、現在は収蔵スペースがまったくないため、すべてお断りせざるをえない状況である。今後はこれにならって、申し出があれば貴重な資料にラベルを貼って廃棄処分しないように指示した上で、博物館の台帳に登録するような方法をとりたいと考えている。

さらにこの計画が NTT トップの強い決断により出発し、3年間と期間を限ったプロジェクトであったことも、成功した秘訣であろう。岩波映画その他で活躍されてきた吉原氏の学識と努力に負うところきわめて大であるが、同氏の奮闘振りに感服して、関係者全員がその指示に従って邁進したに違いない。

「糸電話のようなものが展示されていなかったし、電話の原理の説明がなかったようですね」と遠慮なく批判的な感想を述べたところ、吉原氏から直ちに、そのようなことは科学博物館にまかせたらいいとしてまったく考慮しなかった、

との答が返ってきた。一応「歴史をたどる」の展示は、「親しみやすい日本情報通信史」ということになっているが、小中学生には難しく、かなりの教養人でないと理解しにくいと思われた。ましてや「技術をさぐる」は、対象が明確に専門技術者に限定されている。このような立派な施設でありながら、積極的に社会に公開しているとは思えず、むしろ社内向けという意識が強いように見受けられた。つまりこの史料館のもっとも顕著な特色は、まさに目的や対象が単純化されている点であり、それゆえにきわめて質の高い展示となったのである。

われわれはこれまで大阪大学という総合大学の博物館は、基礎から最先端の研究までを広く扱い、小学生から一般社会人や研究者まであらゆる人々を対象にしなければならないと考えてきた。今回のこの見学によって教えられたことは、分野や展示品によっては、思い切って対象や目的を限定した方が効果的な場合もあるということであった。

(こえづか・たかし 総合学術博物館長・教授)

電子図書館への招待 その8 CrossFire, SciFinder Scholar 大阪大学における効率的データベース使用 : CrossFire と SciFinder Scholar の使い分け

生 越 専 介

1 大阪大学における科学情報検索システム 利用の現状

現在大阪大学においては数多くのデータベースが使用可能となっている。化学を中心とする科学情報を検索する際に使用するデータベースとして主なものに、CrossFire と SciFinder Scholar が挙げられる。これらは、数多くの大学で2つ同時に導入されていることが多い。

しかし、大阪大学においてこれらが効率的に使用されているかというところではない。その

大きな問題点の1つとして挙げられるのが、SciFinder Scholar への偏重であろう。SciFinder Scholar は SciFinder の大学版である。大阪大学における同時アクセス可能回線数は6回線となっており、大阪大学は全国的に見ても最も回線数の多い大学である。それにもかかわらず、検索をしたいときにデータベースにアクセスできないという状況が往々にして生じてしまう。他大学の研究者に聞いても、ここまで混み合っている例はほとんどない。また大阪

大学において実際にデータベースを活用して情報を収集している教員に聞いてみても、SciFinder Scholar の認知率、使用率は高いものの、CrossFire を知らない人、あるいは名前は知っていても使用したことがないケースが多い。学生にデータベースの使い方を教える教員が、この状況であると、学生はなお一層、SciFinder Scholar への偏重を進行させてしまう。

もう一つの理由は、CrossFire を設定するのが、ほんの少し面倒くさい事もその理由であろう。筆者の研究室においての現象であるが、年度があらたまるたびに CrossFire を使用する学生が減る。気が付いたときにインストール法を記述したメールを研究室内に転送するようにしているが後手に回ってしまっているのが実情である。これに関しては、図書館あるいはサイバーメディアセンターの方にホームページの工夫、あるいはメール配信のタイミングなどの工夫をおねがしたい。

以下、本稿で述べる内容は科学情報検索に長けた方には物足りない、あるいは意見を異にされる方も多いと思われる。が、あくまでデータベース検索の初心者意識して、また大阪大学の現状を反映しての内容であると考えて頂きたい。

2 データベースの違いを知ろう

同じ情報を検索しても、データベース設計コンセプトの違いにより得られる情報に大きな違いが生じる。これを良く理解して目的に応じて使用するデータベースを使い分ける必要がある。1つのデータベースだけにたよったりすることのないように心がけたい。

ここでは SciFinder Scholar と CrossFire の使い分けについて述べたい。また少し性格の違いのものではあるが Web of Science での情報検索にも少し触れる。これは前者2つの検索システムではできないことも可能になっており、極めて有効な手段になるためである。

また、ここで得られた検索結果は文献整理ソフト(筆者は EndNote 4 を使用)に流し込むことで、容易に必要とする書式に変更可能である。これについては、付録にて少し触れる。

2.1 CrossFire

35研究室が現在利用、年額 30,000 円。有機化合物・・・Beilstein Handbook、有機金属錯体・・・Gmelin Handbook がデータベースとなっており、これを電子データにしたものと思って大きな間違いはない。データベースの詳細、検索法は4章に示したウェブサイト一覧を参考にされたい。

a) 長所

学内にサーバーが設置してあり応答が速い。同時アクセス数が無制限なので検索したいときにはいつでも出来る。

検索式が書きやすい。

反応検索において細かな指定ができる。

有機物、金属化合物で検索するデータベースが異なる。

物性の項目別に文献が羅列してある。

b) 短所

言葉での検索が SciFinder Scholar に比べると苦手、あるいは使い勝手が悪い(最近、非常に改善されてきた。問題がなくなったとは言いが、かなり実用的になった)。

アップデートが四半期に一度。

検索結果を文献整理ソフトに流し込むことができない。

c) CrossFire のインストール方法

文末に示すホームページに必要事項を登録後、ソフトをダウンロードする。大学ホームページからもダウンロード可能である。

ダウンロードしたソフトをインストールする。サイバーメディアセンターから送られてきたメールに従い設定を行う。

以下に、筆者の研究室に送られてきた設定例を示しておく。

-----以下引用-----

<http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/manual.html> を参照し、ソフトをインストールして利用してください。

途中で入力が必要な事項は次のとおりです。

- ・ IP アドレス： ***.***.***
- ・ (Station は何でも構いません。)
- ・ グループ名： xxxxxx (2 行とも同じものを入力します。)

インストール完了後、MDL CrossFire Commander V6 のショートカットが作成されます。起動後、「Option」「Connection」から default.prf を選択し、「edit」をクリックします。Communication の Port が「XFIRE」になっているかを確認し「OK」します。

ID : xxx-xxxx

パスワード： 後で送られてくる

2.2 SciFinder Scholar

100 研究室が利用、年額 30,000 円。ただし CA on CD の共同購入研究室は 10,000 円。昔の CAS ON LINE と思っておけば大きな間違いはない。

文献情報・・・CAplus ファイル
化学物質情報・・・REGISTRY ファイル
有機化学反応情報・・・CASREACT ファイル
市販化学品カタログ情報・・・CHEMCATS ファイル
化学物質規制情報・・・CHEMLIST ファイル
医学文献情報・・・MEDLINE ファイル

この内文献情報を検索する際には、CAplus ファイルを使用することになるのだが、内容の一部が MEDLINE と重複している。文献リス

トの作成などのために重なりのない文献情報を収集したいときは、MEDLINE を検索対象から外すことが必要となる。また、逆に医学情報の文献が欲しいときには CAplus を検索対象データベースからはずしておくことも必要になるであろう。

検索法を日本語で読むには、『インターネット時代の化学文献とデータベースの活用法』(時実象一著、神戸宣明監修、化学同人、2002年)を参考にするか、「化学」という雑誌(化学同人)の2003年1-12月号に時実象一氏が「SciFinder 入門～化学情報に強くなる」というタイトルで詳しく説明されている。

a) 長所

データベースの情報量が非常に多い。
パテント情報が多い。
言葉での検索が容易。
registry number での検索可能である。
ある論文を引用している論文を調べられる。
基本的にアップデートは毎日行われる。

b) 短所

回線数が6本(国内では最多)と少ないために混み合って検索できないことが多い。
反応検索において細かい指定ができない。
非常にノイズが多い。知りたい情報が簡単には見つけれられない。

c) インストール方法

文末に示した電子図書館のホームページからソフトをダウンロードする。
ダウンロードしたソフトをインストールする。
サイバーメディアセンターから送られてきた暗号ファイル「site.prf」を所定のフォルダに入れる。これで使用可能となる。

2.3 Web of Science

現在247研究室が利用、年額20,000円。
文献検索が目的のデータベースであり、化合

物の反応検索、構造検索はできない。しかし、ある論文の被引用回数を簡単に調べられるので、ある研究者の論文を調べ、そのうち最も引用回数が多いものを探るときなどに威力を発揮する。別途、構造検索データベースを追加すれば可能となる。しかし、大阪大学には、すでに上述した2つのデータベースがあるためにあまりメリットがない。

a) 使用法

特別にソフトをインストールする必要はない。ポータルシステムにログインして使用すればよい。ただし、事前に利用申請をしてIDを登録しておく必要がある。

3 効率的な検索法

3.1 ケース1

化合物構造検索、反応検索においては CrossFire にて検索する。

論文作成のために、化合物、反応などを網羅しておく必要がないかぎりではこれで十分。特に化合物の合成法を検索するだけならこれだけでよい。また、化合物のスペクトル、生理活性などの各項目別に文献を知りたいときには圧倒的な威力を発揮する。データのノイズが少ないので使用しやすい。有機化合物(Beilstein)、金属錯体(Gmelin)など、別々のデータベースからの検索となる。

CrossFire での検索では、目的とする情報が得られなかった場合に、SciFinder Scholar を使用する。ただし、ノイズが多いことは覚悟しておくこと。

3.2 ケース2

論文を書くので文献を網羅したい。パテント情報を手に入れたい。ある薬品を購入したいが、販売している会社がわからない。

こういった場合には、SciFinder Scholar を用いて検索をする。ただし化合物の部分構造検索に関しては必ず CrossFire を併用したほうが

よい。どちらか一方では検索もれがあることが多い。

3.3 ケース3

ある研究者の仕事のうちもっとも引用されている論文を知りたい。

文句なしに Web of Science で検索する。

ただし、Web of Science の収録対象となっていない雑誌もあるので注意を要する。

3.4 ケース4

ある論文に引用されている、あるいはある論文を引用している文献を知りたい。

Web of Science で検索する。SciFinder Scholar でも検索できる。ただ、こういった文献から文献をたどる作業での使い勝手の良さでは Web of Science には及ばない。

4 知っておくと便利なウェブサイト

4.1 大阪大学電子図書館データベース

大阪大学内で利用できるデータベースの情報は、ほとんどここで調べられる。大事なページと思うのだがその割には見つけにくいと学生には不評。

データベースサービスの案内：

<http://wsv.library.osaka-u.ac.jp/others/database.htm>

検索システム設定マニュアル：

<http://dsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/manual.html#sci>

4.2 CrossFire 関連のウェブサイト

a) CrossFire のホームページ

<http://www.beilstein.com/jp/index.jsp>

ここで、ユーザー登録をすれば自由に無料ソフトをダウンロードできる。学内のサーバーよりもソフトの種類(プラグインなど)が充実している。時々、日本におけるユーザーミーティング案内メールが届く。

ダウンロードは学内のサーバーから可能。

[http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/data
base/cfmanual-v6.html](http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/data/base/cfmanual-v6.html)

学内からであればこちらの方が速くて便利であるが、バージョンが少し古いことがある。また、CrossFire 以外のソフトは入手できない。

b) CrossFire に関する日本語での詳しい説明
[http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken
/guide.pdf](http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken/guide.pdf)

[http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken
/beil.pdf](http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken/beil.pdf)

4.3 SciFinder Scholar 関連のウェブサイト

a) SciFinder のホームページ

http://www.jaici.or.jp/sci/sci_scifin.htm

ダウンロードは学内のサーバーから可能。

[http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/data
base/scimanual2004.html](http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/syskan/data/base/scimanual2004.html)

エンドノート(EndNote)へのデータ移植の方法が書いてある(最初だけ日本語)。

[http://www.jaici.or.jp/sci/Support/scholar.htm
l](http://www.jaici.or.jp/sci/Support/scholar.html)

付録 1 検索結果を EndNote へ流し込もう。

1 データベースでのファイルへの書き出し

1.1 CrossFire での準備

手順が少し煩雑なので詳細は以下の URL にある PDF ファイルを参照されたい。

[http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken
/Cross2End.pdf](http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/~kuroken/Cross2End.pdf)

ただ、このままだと Journal 名が、本来の項目ではなく Alternate Journal に書き出されます。これを避ける方法を書いておきます。どちらの方法が使われても同じ結果になるはずです。

CrossFire Commander での対処法 :
ExportWizard から 3 枚目の画面
「Export-Define Data」で、Replace Field
Names...をクリックし、「JO-」を「JF-」に変

更し、再度エクスポート後に EndNote に取り込むことで Journal に文献名が入ります。

EndNote での対処法 : Change and Move Fields コマンドダイアログの Move タブで From を Alternate Journal に To を Journal に設定し実行すると、既存のレコードの Alternate Journal の内容を Journal に移動することが可能です。

注意

・EndNote 4 ではデータを読み込むことができなかった。そのため、EndNote 8 の試用版をダウンロード後確認した。

・Beilstein のタイトル、アブストラクトの収録は 1980 年以降なので、1979 年以前のはタイトルが収録されていないため出力できない。

1.2 SciFinder Scholar での準備

必要なデータにチェックを入れたら(100 まで書き出し可能)「Save As」をクリックする。ファイル名を指定する。ファイルの種類は「Tagged Format」を選択する。ここで、保存する場所を変更しないこと。マイコンピュータ内の「SFSCHLR」というフォルダに保存される。変更してしまうとデータが読み込めなくなる。

1.3 Web of Science での準備

必要なデータにチェックを入れたら(500 まで書き出し可能)「MARKED LIST」をクリックする。

STEP 1 データを移植したい項目にチェックを入れる。

STEP 2 左側 2 つ目の項目で「Field Tagged」を選択する。

その後、SAVE TO FILE をクリックして保存する。

1.4 EndNote での準備

File「Import Filters」Open Filter Manager

検索結果を取り込みたいデータベースの Filter を選択する。

CrossFire のデータを取り込むには以下の Filter にチェックを入れる。

ProCite (普通はデフォルトで選択されている)

SciFinder Scholar のデータを取り込む前に以下の Filter にチェックを入れる。

SciFinder Scholar(CAS)

Web of Science のデータを取り込む前に以下の二つの Filter にチェックを入れる。

ISI Citation Index

ISI Web of Science

実際にデータを取り込む。

File Import

ここで Import Option にて取り込みたい検索結果のデータベースを選ぶ。

今回の場合は以下のうちのどれかになる。

ProCite

SciFinder Scholar(CAS)

ISI Citation Index

ISI Web of Science

その他の、Duplicates: Text Translation.: そのままでよい。詳しくなったら自分でいろいろしてください。

次に Choose File を選ぶ。

後は、検索結果を保存していたところまでたどり着いたら「開く」を選択する。

Import をクリックして終わりです。

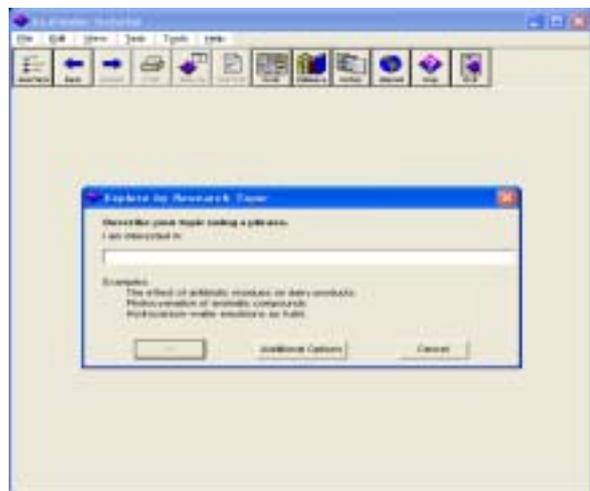
2 少し応用編

自分で作った文献ファイルを、ダウンロードした PDF ファイルに関連づける。これを行うと、EndNote から直接文献を見ることができるようになる。特に、自分の文献リストを整理す

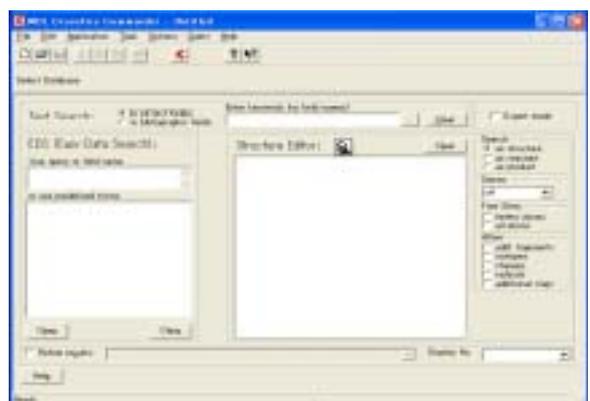
るときや研究室単位での共通データベースを維持するのに威力を発揮する。

作成した EndNote ファイルと関連づけておきたい文献の PDF ファイルを同じフォルダに入れておく。

EndNote ファイルを開き、目的とする文献をダブルクリックして詳細情報を開く。詳細情報の下から 2 番目の「URL」に文献の PDF ファイル名(xxx.pdf)を入力あるいはコピーアンドペーストする。あとは、右クリックから「Open Link」を選んでやれば文献を見ることが出来ます。もちろん、ちゃんとパスを指定してやれば別々のフォルダに入れることも可能です。



SciFinder Scholar 検索画面



CrossFire 検索画面

Copyright Disclaimer:
BioRxiv Database Copyright © 2013-2014, BioRxiv Institute for Publishing the Open Access of Research Results from the National Science Foundation and the National Institutes of Health.
BioRxiv Institute for Publishing the Open Access of Research Results from the National Science Foundation and the National Institutes of Health.
BioRxiv Institute for Publishing the Open Access of Research Results from the National Science Foundation and the National Institutes of Health.
BioRxiv Institute for Publishing the Open Access of Research Results from the National Science Foundation and the National Institutes of Health.
BioRxiv Institute for Publishing the Open Access of Research Results from the National Science Foundation and the National Institutes of Health.

付録2 CrossFire と SciFinder Scholar の概要 (2 0 0 1 現在)

項目	CrossFire	SciFinder Scholar
収録期間	1771 年～現在	1957 年～現在 (化学物質) 1967 年～現在 (文献情報) 1985 年～現在 (化学反応)
ジャーナル数	180 誌	9000 誌
収録基準	化学構造・合成法が明確な新規情報につき、化合物情報、反応情報、物性、生物活性情報等を収録	選別基準は特になし 全ての化学の情報を収集
収録化学物質	20,000,000	23,120,000
収録反応数	10,000,000 反応	1,700,000 反応
データ内容	化合物 反応情報 文献情報 物性情報 生物活性・毒性情報	化合物 反応情報 文献情報
反応情報	シングルステップ	シングルステップ マルチステップ
構造検索		
更新	四半期	毎日
情報間連携		
システム形態	Intranet	Internet
特許情報	～1979 年	Current
価格体系	年間定額	年間定額
製品コンセプト	物質、反応の情報収集に優れている。 特に、物性情報	化学情報全般の収集に優れている。 特に、文献情報

(おごし・せんすけ 工学研究科分子化学専攻助教授)

* 2 0 0 1 年導入時のデータです。

教員著作寄贈図書

(2004.9 ~ 2004.11)

本館	
大阪大学全学共通教育機構	体験的課題追求型授業プロジェクト報告書 / 大阪大学全学共通教育機構編 豊中 : 大阪大学全学共通教育機構, 2003
生命科学分館	
中山 康雄 (人 教授)	共同性の現代哲学 : 心から社会へ / 中山康雄著 (双書エニグマ ; 6) 東京 : 勁草書房, 2004
吹田分館	
中塚 信 (工 助教授)	硬化コンクリートの性質 / 谷川恭雄監修 東京 : セメントジャーナル社, 2004
柏原 士郎 (工 教授)	マネジメント時代の建築企画 / 日本建築学会編 東京 : 技報堂出版, 2004
産業科学研究所図書室	
池谷 元同 (名誉教授)	ESR 顕微鏡 : 電子スピン共鳴応用計測の新たな展開 / 池谷元同, 三木俊克著 東京 : シュプリンガー・フェアラーク東京, 1992
	ESR(電子スピン共鳴)年代測定 / 池谷元同 (アイオニクス叢書) 東京 : アイオニクス, 1987
	New applications of electron spin resonance : dating, dosimetry and microscopy / by Motoji Ikeya ; copy edited by M.R.Zimmerman, N.Whitehead Singapore : World Scientific, c1993
	ESR dating and dosimetry / edited by M. Ikeya and T. Miki Tokyo : Ionics, 1985
	Advances in ESR applications, Volume 18 (2002), edited by Whitehead, N.E., Hirai, M., Tani, A., Yamanaka, C. and Ikeya, M. Toyonaka : The Society of ESR Applied Metrology, 2002
薬学部図書室	
那須 正夫 (薬 教授)	食品衛生学 : 「食の安全」の科学 / 菊川清見, 那須正夫編集 東京 : 南江堂, 2004

(敬称略 : 受付順)

お知らせ

平成 16 年度人文社会系特別図書、高額参考図書の選定について

10月20日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入を決定しました。

・人文社会系特別図書

- 1 「清代學術筆記叢刊」影印版 全70冊
- 2 「明治前期大審院刑事判決録」復刻版 全29巻
- 3 「石川一郎文書」マイクロフィルム (一部分)
- 4 「ジョージ朝期文化資料集成」Unit 6 マイクロフィッシュ
- 5 「日本立法資料全集」別巻25冊

・高額参考図書

- 1 「イギリス人名資料事典」全16巻
- 2 「昭和の読売新聞」戦前編2 CD-ROM版
- 3 「朝日新聞戦前紙面データベース」昭和元年～9年編 CD-ROM版
- 4 「近代日本経済人大系」全12巻 復刻版
- 5 「Comprehensive coordination chemistry」Vol.11-20
- 6 「Encyclopedia of polymer science and technology」
- 7 「Encyclopedia of energy」6 vols.
- 8 「朝鮮地理全書」9巻(昨年購入の残り)
- 9 「Index Islamicus」CD-ROM版

教員対象の一般図書返却方法の改善について

11月1日(月)より、一般貸出図書の返却方法の改善として、下記のとおり、教員の方を対象に試行運用することになりました。

・本館、生命科学分館、吹田分館、人間科学研究科図書室の各館室で実施いたします。異なるキャンパス間同士で返却することが可能となります。返却時に、カウンターでどこで

貸出をされた図書か、をお伝え下さい。

・ただし、機械貸出できなかったもの、返却期限を過ぎたもの、特殊資料等は、貸出された館室へ直接返却ください。また、学内便搬送によるタイムラグにより、貸出期限・貸出冊数に影響がでる場合がありますのでご了承下さい。

「附属図書館アンケート」を実施しました

11月1日から30日までの1か月間、附属図書館(本館、生命科学分館、吹田分館)の来館者に対して実施いたしました。これと並行して共通教育の語学授業の一部でも同じアンケートを教員の方々に依頼して実施いた

しました。アンケートにご協力いただいた方々および関係者一同のご協力にお礼申し上げます。

なお、このアンケート結果については次号に紹介する予定としております。

会 議

- 電子図書館専門委員会** 10.6(水)13:00~15:00
1. 平成17年度電子ジャーナル必要経費について、協議した。
 2. データベースサービスについて、学生に対する利用拡大が承認され、デジタルコンテンツ委員会です承された後に実施することとした。
 3. データベースの追加要求があった場合の対応について、検討した。
 4. 電子ジャーナルのタイトル追加希望があった場合の対応について、検討した。
- 図書館委員会** 10.12(火)10:00~11:30
1. 卒業生のサービス拡大について、承認され、次回委員会に利用規程の改正案を附議することになった。
 2. 寄附の募集について、募金活動を行うことを了承した。
 3. 公用貸出及び蔵書点検について、協議した。
- 吹田地区運営委員会** 10.28(木)11:10~12:10
1. 吹田分館備付資料購入費部局分担比率の改正について協議が行われた。
 2. 重複雑誌の不用決定手続きについて協議が行われ了承された。
 3. 経済史関係資料の移管について協議が行われ了承された。
- デジタルコンテンツ委員会** 11.12(金)15:00~16:30
1. 電子ジャーナルの経費について、協議した。
 2. データベースサービスの拡大について、既定方針のとおり推進することを了承した。
 3. 中之島センターでの電子情報サービスについて、附属図書館と中之島センターで協議していくことになった。

日 誌

H16.10.1	第78次国立七大学附属図書館協議会	(名古屋大学)
10.6	電子図書館専門委員会	(本館)
10.12	図書館委員会	(本館)
10.22	国立大学図書館協会理事会(平成16年度第3回)	(京都大学)
10.28	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
11.12	デジタルコンテンツ委員会	(生命科学分館)
11.26	国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会	(京都大学)

大阪大学図書館報 Vol.38 No.3 通巻 152号 2004年12月27日発行
発行 大阪大学附属図書館 〒560-0043 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070
e-mail : sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp